



小方学園（小方中学校）だより 中

学園教育目標 「かしこく なかよく たくましく」

～元気に 仲良く 学習する 児童生徒の育成～

令和6年3月25日

第12号

担当 教頭 片平真司

3月7日（木）には中学3年生が小方中学校を巣立っていきました。卒業式では小方学園で過ごした日々を、呼名された時の「ハイ」という返事、言葉にできない溢れる思いを涙ながらに歌声にのせて届けてくれました。最後の見送りでは胸を張って笑顔で歩いている姿は、頼もしくもあり、嬉しくもあり、また、寂しい思いもありました。そんな姿を1、2年生はしっかりと受け継ぎ進級して言ってくれと感じています。桜の季節、1年生、2年生、3年生それぞれ次のステージでも力の限り頑張ってくれとほしいと願っています。

保護者の皆様におかれましては、1年間本校の学校教育に御理解とご協力をいただき感謝しております。来年度も教職員一同、未来を担う子供たちの為に全力で学校教育に邁進していきたいと思っております。1年間本当にありがとうございました。

【 修了式 校長先生の話より 】

○修了式ではパワーポイントを活用して子供たちに話しました。

修了式です。この一年間、自分で成長したところ、次がんばるところは何かをはっきりさせて、次の学年に向かいましょう。もう一つ、この一年間過ごした学級は解散です。学級の仲間、そして、先生に「ありがとうございました」と感謝の気持ちをあらわして帰りましょう。

そこで、来年度に向けて全校のみなさんに最後の話をします。

今朝も、朝一さわやかで、気持ちがうれしくなることがありました。ほぼ毎日朝の練習で7時ごろには、学校に来て玄関で待っている野球部で野球をしている人たちが、いつも、校長先生が車を降りると、ベンチに座っていても、パッと立って、「おはようございます。」と大きな声であいさつをして、頭を下げます。いつも先にしています。もちろん、校長先生も答えます。先を越されています。いつも、校長先生が負けます。でも、朝一「うれしい」

「幸せな気持ち」になります。たまに夕方に野球部の練習を見に行っても、遠くから校長先生の姿が見えたら「こんにちは」とわざわざ帽子をとって言ってくれます。また、うれしい、幸せな気持ちになる。人を大切にしてくれていると感じます。みんなが、お互いに気持ちの良い生活ができる。だから、校長先生はずっと、あいさつをしようと、みんなに声をかけ続けました。大竹市の入山市長さんも、市役所で働く人に、いつも「明るいあいさつ」「気持ちの良い返事」を呼び掛けていらっしゃいます。

おはよう
ございます。



信号機のない横断歩道を渡ろうとして、車が止まってくれた経験のある人？どんな気持ちがしましたか？そのことで、最近、校長先生が、人が「うれしい」「幸せな気持ち」にさせたのではないかと自分で思うことがありました。休みの日。雨が降っていました。校長先生は車でお出かけしました。すると、家を出てしばらく進むと、信号機のない横断歩道がありました。見ると、おばあさんが手押し車を押した状態で、横断歩道を渡ろうとして立っていらっしゃいました。雨の中、傘をさしていませんでした。おばあさんに横断歩道を渡っていただきたくて、校長先生は、横断歩道のまあま手前で止まりました。反対の車線から走ってくる車がいました。おばあさんが心配です。でも反対の車線から走って来た車も止まってくれました。



横断歩道を渡るおばあさん。手押し車を押しながら、こちらの方を向かれて、笑顔で何度も頭を下げながら渡っていただきました。たぶん、自分で言うのもアレですが、おばあさんが「うれしく」「幸せな気持ち」になってくださったのではないかと思います。雨も降っていたから…。でも、逆に、校長先生も、人の役に立て、「うれしく」「幸せな気持ち」になりました。歩行者が待っていたら、法律もあるけど、車を止めて、車より弱い歩行者に渡らせてあげたい、歩行者にうれしい気持ちになってほしい、喜んでほしいと、改めて思いました。

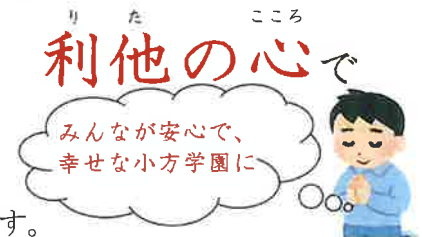
あいさつと横断歩道の話为例に出しましたが・・・

人を「うれしく」「幸せな気持ち」にさせる、「喜ばせる」心を「利他の心」と言います。「人を幸せにする、喜ばせる、うれしくさせるために、何かをする心」そして、人が喜ぶのを見て喜びたい。逆は、人が悲しむ、困らせて喜ぶのは最低です。

そして、最もいけないのが、人の身体や心を傷つける「いじめ」や「自分や他人の命を大切にしないこと」。だから、いじめはもちろん、廊下を走っている人も許せない。大げかもありました。

担任の先生からも何度も注意されているにもかかわらず、まだ走るのをがまんできない人。自分をコントロールできない人もいます。人のうれしさや喜びより自分を優先しています。「公より私」を優先する人。「利他の心」に欠けている人。ぜひ、「利他の心」を自分で育てて、その心に従って行動してほしい。

みんなが、安心して幸せな気持ちで生活できる学校になりますように、願いを込めて、最後の話を終わります。



【修了式生徒代表の話】

「一年間を振り返って」

2年1組 森岡 莉菜

「皆さん元気ですか！」校長先生が離任されると聞いて、やるしかないと思い言ってみました。さて、2年生での行事はたくさんありました。特に私の印象に残っている事は4つです。私は2年1組で私たちのクラスの学級目標は「Beyond the limit 挑戦する心」でした。

Beyond the limit とは、限界を超えろという意味です。学級目標を書いた旗を持って行進した運動会、私たちは紅組で負けてしまったけれど、練習も本番も限界を超えて精一杯がんばられて楽しかったです。夏休み中に行った職場体験学習は慣れない事ばかりだったけど、挑戦する心を忘れず、3日間の仕事をやり遂げることができました。一步大人になれた気分で嬉しかったです。学園祭で行った合唱コンクール、毎日放課後の廊下から違うクラスの人にも聴こえるくらいみんな練習に励みました。最優秀賞は2年2組で私たちではなかったですが、一人一人が限界を超えて美しいハーモニーを作ることができました。そして、待ちに待った修学旅行。1日目は京都で金閣寺や清水寺などを班ごとで見学して学びました。写真で見た時よりもずっときれいでした。2日目は座禅をしました。限界を超えて集中して座っていたので、その後のお茶と和菓子は最高においしかったです。午後からのユニバーサルスタジオジャパンは時間を忘れるほど楽しみました。3日目の大阪の海遊館では、飼育員の大変さを飼育員さんに教わりました。その大変な仕事のおかげで綺麗な魚たちが泳いでいると思うと感動しました。3年生になってもこの1年間の楽しかった体験を生かして頑張りたいです。卒業まで後悔の無いよう「Beyond the limit 挑戦する心」を心に、あと一年間楽しみます。

【 お世話になりました 】

3月は別れの季節と言われますが、今年度も7名の先生方が小方中学校から去ることになりました。(先日のご案内後に決まりました講師の先生方分を載せています) これまで、小方学園の子供たちの為に様々なことをしてくださいました。今まで本当にありがとうございました。

《退任》教諭 大原厚彦

《離任》校長 真鍋和聰

教諭 田中新治 (大竹中学校へ)

講師 姫島 緑 (任期満了)

講師 神田智里 (任期満了)

教諭 向井紋子 (廿日市特別支援学校)

教諭 倉内 亨 (任期満了)

講師 中邑采華 (任期満了)

事務主任 増田裕子 (任期満了)